

令和4年度第1回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年9月16日(金) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいていることに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただき、感謝申し上げます。

今年の夏は、3年ぶりに行動制限がなく、子ども達は、久しぶりに、色々な体験をし、様々な思い出をつくることのできたのではないかと思っている。

一方で、新型コロナウイルスの感染水準は依然高止まりしており、子ども達の感染も相次いでいる。そのため、県では、学校において、マスク着用や手洗いなど、基本的な感染予防対策を徹底していただくことなどを要請している。

これから季節が移り、感染症が拡大しやすい時期を迎える。そして、今年は、インフルエンザとの同時流行、いわゆるツインデミックの発生も懸念されているので、引き続き、県教委と緊密に連携しながら、感染防止対策に万全を期してまいりたい。

さて、県では今、今後の県政運営の指針となる新たな総合計画「やまぐち未来維新プラン」の策定を進めており、この度、素案を取りまとめたところである。

このプランでは、コロナ禍がもたらした社会変容や、気候変動への対応など、県政を取り巻く大きな環境の変化に的確に対応するため、「安心・安全」、「デジタル」、「グリーン」、「ヒューマン」の4つの視点で、「3つの維新」をさらに進化させ、「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現を目指していくこととしている。

そして、こうした県づくりを進めていく上で、とりわけ「人づくり」が極めて重要になることから、私は、これを重点プロジェクトに位置づけ、本県の将来を担い、未来を切り拓いていく若者たちが、困難な課題に果敢に挑戦し、乗り越えていく力を身に付けるため、市町や学校、地域、団体、企業の皆様と連携・協働しながら、重点的に取組を進めていくこととしたところである。

この「人づくり」については、これまで、乳幼児期における教育・保育の質の向上に向けた体制の整備や、全国に先駆けて整備した1人1台タブレット端末等を活用して行う学びの充実、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総がかりで子ども達の学びや育ちを見守り、支援する地域連携教育の推進等の取組を進めてきた。

また、最先端の学術的知見を活用しながら、人づくりの取組をより効果的に推進するため、先日、東京大学の先端科学技術研究センターと連携協定を締結

し、早速、第1弾の取組として、学校に馴染めない子ども達にも参加をいただき、社会体験を行う、学びのプログラムを実施したところである。

今後は、これまで取り組んできた基盤の上に立って、誰もが学びへの意欲を高め、等しくチャレンジできる環境の整備や、多様な学びのニーズに応える学校づくりを推進するなど、本県の将来を担い、未来を切り拓いていく人材育成をさらに充実していく考えである。

本日は、令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について御報告するとともに、来年度の重点取組方針についてお諮りすることとしている。

委員の皆様には、忌憚のない御意見、御提案を賜りますよう、どうぞお願いしたい。

5 議事概要（議事進行：知事） ※委員発言：● 事務局説明等：○

（1）令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について

（2）令和5年度重点取組方針（案）について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●佐野委員

令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について、意見を申し上げたい。まず、新たな時代に向けた人づくりの推進として、子育てを支援し、幼保の教育が小学校教育に繋がっていくような基盤、組織的な連携が築いていける施策・予算が確保されていると感じられる。幼児期教育から小学校教育に連動していく環境が確実に根付いて欲しいと思う。「三つ子の魂百まで」とも言われているが、次世代の山口県に繋がる施策になっていると思う。

また、1人1台タブレット端末を活用した「やまぐちスマートスクール構想」として、普段使いと言われるためにも、情報端末を活かした教育手法を定着させて、先進的な取組や深い学びに取り組んでいただきたい。単にデジタル化するだけではなく、既存の取組とネットワークやコンピュータを利用した取組を組み合わせ、さらに利用しやすい環境を山口県教育の中で整えて欲しいと考えている。そこで、デジタルとアナログを上手に繋げるためにも、例えば、二次元コードなどのように、ワンタッチで確認ができるようなハイブリッド的なDX手法も取り入れていくと、大変良いと思う。今、社会では、様々な場面で二次元コードが使われて、デジタルとアナログを繋ぐ工夫がされ始めている。そのような工夫を1つでも取り入れることで、子ども達にも使いやすい環境を整備することができるのではないかと思う。今回、多くのデジタル関係の施策に取り組まれているが、このような普段使いに向けた工夫・改善を期待したいと考えている。

また依然、課題として、いじめに対する子ども達の認識が思ったように深まっていないように感じている。多くの児童・生徒が「いじめは良くない」と理解しているにもかかわらず、なかなか成果として、実感できないところがあり、大変残念である。これまでも取り組んでこられているが、さらに強化を図って

いただきたいと感じている。いじめる側・いじめられる側の両者にも対応されていると思うが、いじめられる側への対応が中心となっているように思う。いじめる側に対しても、カウンセリング等の対応が重要と思う。

また、不登校児童・生徒数も増加傾向となっており、この状態は社会的にも大きな損失に繋がると感じている。現在、不登校になっている児童・生徒に対して、教育の機会を確保し、学び直せるというメッセージを伝えるとともに、早い段階で再出発しやすい柔軟な教育制度を用意する必要があるのではないかとと思う。

全般的に、新たな時代に向けた人づくりの基盤となるような施策が、多く用意されていると感じている。これらの施策が、山口県の強みや成果に繋がることを期待している。

●村岡知事

御指摘いただいた幼児期の教育の重要性も、おっしゃる通りだと思っている。新型コロナウイルス感染症の影響で、全県立学校において1人1台タブレット端末を前倒しして一気に導入することとなったが、タブレット端末を活用した教育手法をさらに充実させていくことが重要だと思っている。その上で、デジタルとリアルの良さをそれぞれ再確認しながら、教育の質を高めていただきたいと考えている。「やまぐちスマートスクール構想」もますます充実させていきたいと考えているので、色々な御意見・御提言を賜りながら、教育の質をさらに高めていきたいと思っている。

また、いじめ・不登校対策についても大変重要であると考えているので、県教委と連携し、有効な取組を検討していきたいと考える。

●小崎委員

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響で実施ができなかった子ども向けの事業が、今年度は実施されているので、本当に嬉しく思っている。

私は、萩東中学校区で地域学校協働活動推進員をさせていただいており、地域協育ネットとしての活動が2年ぶりに再開した。地域協育ネットとして活動する中で、子ども達の学びや育ち、能力を伸ばすためには、家庭・地域・社会という横の繋がりと、縦に繋がる校種間連携が必要であると思っている。特に、校種間連携は私達のネットワーク内でも積極的に取り組んでいきたいと思っており、幼保・小中高、さらには萩市には至誠館大学もあるので大学とも連携することで、子ども達がお互いに刺激を受け、学び合うことができるのではないかと考えている。そのような思いもあり、今年度、私たちのネットワークの活動も校種間連携を一つのテーマとして、この秋にイベントを行うこととしている。

また、スマートスクール構想について、先日、小学校に視察に行ったが、小学生がタブレット端末を当然のように使いこなしていた。自分の思いをそのタブレット端末に打ち込んだり、授業で先生とやりとりをしたり、そうい

うことが普通にできていることに改めて驚かされた。このような経験は、子ども達の世界を広げることになるので素晴らしいと実感した。ICT機器を活用することで、子ども達の学びがより充実するとともに、地域協育ネットでは、子ども達がじかに触れる体験、デジタルではできないことを五感で感じるような機会等を作っていきたいと思っている。ぜひ県でも、幼児・児童・生徒・学生が共に活動できるような場をさらに提供いただきたいと思います。

最後に、知事に毎回お願いしているが、生徒と意見交換をするため、萩東中学校に来ていただけるということを楽しみにしていたが、中止となった。残念な結果になったが、関係各所の方に本当にお世話になったと聞いているので、この場を借りてお礼申し上げたい。また機会があれば、ぜひ中学生に会いに来ていただきたい。

●村岡知事

私もぜひ、中学校に行きたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

さて、小崎委員の言われるとおり、スマートスクール構想では、デジタルとリアルの良さをそれぞれ再確認しながら進めていただきたい。

また、地域協育ネットとしての活動が2年ぶりにスタートされたということで、今まで御苦勞を重ねた上で、何とか再開に繋げられたのではないかとと思っている。やはり、幼稚園から大学までの連携は大変重要だと思う。コミュニティ・スクールでは、新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなか活動することが難しいことを改めて感じたところである。そうした子ども達の学びを止めないためにも、地域が連携していかないといけないと思うし、今後、県教委と一緒に仕組みを作っていきたいと考えている。

最後に、ぜひ学校現場に行かせてもらうことで、私自身もしっかり学び、今後の取組を進めていきたいと思う。

●穎原委員

新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な教育活動が縮小している状況であるが、感染の状況も踏まえながら、引き続き再開の可否について御検討いただきたい。また、県教委主催の留学支援が中止となっているが、政府による出入国の規制緩和などと合わせて、再開の可否について御検討いただきたいと思う。

学校安全の推進について、引き続きPDCAサイクルを回すことで、見直しを行い、子ども達の安全意識、危機意識の向上を図っていただきたいと思っている。

修学支援の充実について、スクールバスの活用により、僻地・過疎地の子ども達への支援という面も当然あると思うが、通学の安全・安心を確保するという観点もあると思う。そのため、全国の自治体でスクールバスの導入事例などを参考に、引き続き柔軟に対応していただきたい。

子どもごとに得意科目、不得意科目があると思うが、科学や語学、プログラミング、芸術などの各分野で子ども達の長所を伸ばせるような教育の充実をお願いしたい。

教育のICT化について、当然、アナログ教材も良い面があると思うが、段階的にデジタル教材を増やすということも御検討いただきたい。まだアナログ教材が中心となっており、小学校ではランドセルが重くて腰痛になるとか、中学校では自転車に乗っている時に、バランスを崩して危ないなどの話を聞いている。

また、1人1台タブレット端末を導入することで、様々な良い点もあると思うが、一方で、様々な課題が上がっている。例えば、タブレット端末に漢字を書くときに、指では書きにくいですが、デジタルのペンを使えば、書きやすくなるなどの課題があるのではないかと思う。そのような課題をしっかりと把握して、さらなる改善を図っていただきたい。

山口県の教育がさらに充実したものになることを期待している。

●村岡知事

確かに新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な教育活動ができなくなっているので、対策を講じながら早い再開を願っている。

また、安心・安全な学校づくりは、大変重要なことであるので、引き続き、関係機関が一体となって、学校安全の取組を推進していきたい。

教育のICT化について、デジタル教材とアナログ教材のお互いの良さがあるので、どちらがどのような場面で優位性があるのかをよく考えながら活用していかないといけないと思っている。

また、教科書、教材がA4サイズになっており、ランドセルが本当に重たくなっている。毎日、重たいランドセルを背負っている小学生を見ていると、心配になるときがある。デジタル教科書はそれらの課題を解消することができるので、進める必要があると思う。

●和泉委員

1点目は、教育現場では新型コロナウイルス感染症がまだ影響を及ぼしている中で、学校現場の先生方は一生懸命頑張っている。先日、美祢市の秋芳桂花小学校に視察に行ったが、現場の先生方の努力を間近に見させていただき、本当に頑張っていると感じた。子ども達のほぼ全員がタブレット端末を自由に使いこなしており、非常に1人1台タブレット端末がますます重要になってくると実感した。

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会で行きとめられた「令和の日本型学校教育の構築を目指して（答申）」では、「協働的な学び」、「個別最適な学び」がキーワードになっている。旧学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」は、教室における学びのイメージが強かったが、「令和の日本型学校教育の構築を目指して（答申）」では、「協働的な学び」は他校や地域な

ど、もっと広い意味での協働というイメージで述べられている。また、同様に旧学習指導要領での「個に応じた指導」は指導の意味合いが強かったが、「個別最適な学び」では、子ども達の学びを視点としている。そのようなことを広めていくためにも、今後も、1人1台タブレット端末の使い方をますます研究していただき、子ども達の将来のためにも役立って欲しいと思っている。しかし、家庭にタブレット端末を持ち帰っても、なかなかインターネットに繋がらない地域とか、学校によっては、家庭に持って帰ってはいけないなどのルールもあるので、基盤整備も含めて、御支援いただきたいと思っている。

2点目は、令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況のうち、新規事業として、「次世代を支えるデジタル人材育成事業」、「子どもの夢応援 大学等受験料補助事業」、「新たな時代の人づくり協働推進事業」など、新しい時代を見据えて、子ども達の夢を支えるような事業が展開されているので、本当に素晴らしい取組が始まったと思っている。最近の世界的な情勢、日本の置かれた状況で、子ども達も漠然と不安に思っていることが多いのではないかと思うが、そのような子ども達に夢を与え、頑張っていこうと思えるような環境づくりに取り組んで欲しいと思っている。令和5年度重点取組方針（案）でも、人口減少という大きな課題の克服を念頭に、様々な施策を展開していただきたいと期待している。そこで、特にお願いしたいのは、やはり子ども達、未来の若者の将来の夢を育むような取組を実施して欲しいと思っている。本県の課題として、中学受験、高校受験の段階から県外に出て行く児童・生徒や、大学進学・就職で県外に出て行く若者が多いという現実も踏まえて、若者が夢を持てる、子ども達が本当に学びたいと思えるような学校づくりに御尽力いただきたい。

3点目は、今年度、教員免許更新制が廃止になり、新しい教員研修システムを実施する必要があるということで、県教委でも、色々と検討されている。その中で、学校現場の先生方が元気でないと、学校が元気にならないので、単にやらされている研修ではなく、自分たちが研修を作り上げていくような現場になって欲しいと思っている。そのためにも研修システムのバックアップをお願いしたい。

●村岡知事

重要な御指摘をいただき、大変ありがたい。

特に、子ども達が夢を持てるような学びの環境を整備することは、大変重要である。子ども達が、県外に流出していくのではなく、県内でしっかりとニーズに合った形での学びの場を提供することは大事だと思う。そのニーズをしっかりと汲み取って、県内で受け皿を作れるようにしていかなければいけないと思っている。そのためにも県教委とともに、方向性を確認しながら進めていくとともに、先生方の研修についても、しっかりと支えていきたいと思っている。

また、協働的な学びや個別最適な学びについて、デジタルとリアルのお互いの良さがあるので、両方ともしっかりと進めていかなければいけないと思う。ま

だ、インターネットに繋がりにくい地域があることについて、教育だけではなく他の分野にも影響するため、何とか解消しなければいけないと思っている。私は、全国知事会において、デジタル社会推進本部長に就任しており、各県からも基盤整備について、多くの意見が寄せられている。デジタル化を全国津々浦々まで進めていかないと、地域がますます取り残されていくことになる。基盤整備されれば、地方でも色々なことができるようになるが、基盤整備されないと何もできない状況になってしまうので、知事会の方でも強く訴えていきたいと思っている。そこで、今回、光ファイバーの整備が、国のユニバーサルサービス制度に位置づけられ、事業者の負担で採算が取れない場合でも支援されるようになった。法律改正もされて、これから執行されることになるが、採算が取れない厳しい地域でも、運営に必要な資金を、国の財源で交付されることとなり、大きな成果であると感じている。また、光ファイバー、5Gの整備も、政府がスケジュールの前倒しで、全国的な整備を進めていくということになった。全国のほぼ全てをカバーできるような形となったことは、大きな前進だと思うし、この取組が実行されるように、引き続き国に対して、要求していきたいと思う。やはり、基本的なICT環境が整備されていないと、ますます地域格差が生じるとともに、教育の質の確保にも影響すると思うので、しっかり進めていきたいと考えている。

●木阪委員

令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について、非常に積極的な施策をされており、大変頼もしいと感じている。ただ、知事のリーダーシップのもと、実行していただきながらも、時には後ろを向いて、県民目線で進めていく必要があると思う。

私は、教育委員の職に就任して約1年になる。地元の市教委にお願いして、学校の授業参観に出かけているが、特に、この1年はICT教育がますます進んでいると、本当に感じている。先日、職場体験として、ある学校の生徒をお預かりしたときに、限られた時間の中で、働くことの大切さを教えるとともに、私の会社について、SWOT分析をやってみてくださいとお願いをした。要するに、当該生徒に、自社の外部環境と内部環境の「強み」・「弱み」、「機会」・「脅威」、さらには柳井地域の色々な経済環境のことを、ICTを利用するなどして、調べてもらった。そうしたところ、私としては、約80点の出来であった。私が思っている以上に、最近の生徒はICTの活用や検索能力について、本当に長けており、素晴らしいと思った。この能力を学校やスポット的な地域活動だけに留めておくのは、大変、残念であると感じている。疲弊している地域に対して、中学生、高校生の力が必要ではないかと思う。

また、個人的な経験で恐縮であるが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き始め、色々な取引メーカーの営業担当者が私の店にお見えになっている。新卒、大卒2年目ぐらいの若い方もお見えになるが、新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べると、ICT機器も活用されており、彼らと話をする

ことで新しい風が吹きこまれたように感じるがあった。ただ、少し問題だと思えるのが、京セラの稲盛和夫著の本に書かれていたが、いわゆる心、人としての部分を説くような大人や先生方が少なくなっているのではないかと思っている。つまり、デジタル機器をどんどん推進しつつも、教育の原点である心を見据えた施策も大切であると考えている。

●村岡知事

企業家としての立場で、御支援をいただき、大変ありがたいと思っている。お話のとおり、子ども達の経験・学びという意味でも大きなフィールドが必要であると思う。そこで、やはり子ども達の力を発揮する場として、学校だけではなく、地域や社会に出ていくことは大事であると再確認することができた。

課題解決型学習の取組として、やはり実社会の中で自分たちが何かやってみて、それがどうなるのかを学ぶためにも、そのような機会を提供することは非常に大切であると思っている。これまで新型コロナウイルス感染症の影響で、学ぶ機会が非常に少なくなっていたので、子ども達の学ぶ意欲を低下させないためにも、学ぶ場を提供する必要があると考えている。

また、子ども達の心を育てるとするのは、学校教育だけでは育たないと考えている。そのためにも、地域と関わることで気づくことや、育まれる部分が大きいと思うので、学校と地域が連携していくことが、大切である。そのような意味でも、新型コロナウイルス感染症を乗り越えて、地域連携の取組を充実させていくことが重要であると思うので、今後も県教委と連携を取りながら、進めていきたいと考えている。

●繁吉教育長

学校では新学期が始まり、知事の冒頭の挨拶にもあったように、新型コロナウイルス感染者数が依然高止まりの状況である。県立学校も同様の状況であり、引き続き、感染防止対策を徹底しながら、コロナ禍で一気に整備を進めたICT環境を十分活用して、児童・生徒の学びを止めないように、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

私からは、本日、提案があった令和5年度重点取組方針（案）について、2点、お話をさせていただきたい。

まず1点目は、中学校における部活動の地域移行についてである。部活動は学校教育の一環として行われており、生徒の体力や技能の向上を図るとともに、人間関係の構築や責任感・連帯感の涵養に資するなど、生徒の人格形成に大きく影響を与えることから、これまで、その充実に取り組んできたところである。

しかしながら、少子化や学校の働き方改革が進む中、これまで学校が担ってきた部活動を学校単位で継続することが困難な状況になりつつあり、将来的に、生徒がスポーツ・文化活動に親しむ環境が大きく減少することが全国的に懸念されているような状況になっている。こうしたことから、今年度に入り、スポーツ庁と文化庁の検討会議において、まずは休日の部活動の段階的な地域移行

を基本とし、令和5年度から3年間を地域移行に向けた改革集中期間にするなど、部活動の地域移行に関する提言が示され、近いうちに国の方針が出される予定と聞いている。一方で、地域移行の受け皿となるスポーツ・文化団体の整備では、指導者の確保など、県教委だけでは解決が困難な課題が山積しており、これらの課題に対して、観光スポーツ文化部とも協力しながら問題解決に取り組んでいく必要がある。この取組は、これまでの学校中心の部活動を大きく見直すものであり、課題は非常に多いが、観光スポーツ文化部と一体となって、部活動の段階的な地域移行に係る推進計画を策定するなど、子ども達のスポーツ・文化活動の機会の確保・充実に向けた部活動改革にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

2点目は、県立高校の将来構想に基づく学校再編についてである。社会変化、生徒のニーズの多様化、少子化の進行に対応するため、中・長期的な視点に立って、本県高校教育の一層の充実を図るため、今年3月に第3期県立高校将来構想を策定したところである。今後、第3期県立高校将来構想に基づき、さらなる高校改革の推進に向けて、多様な学びの希望に応える特色ある学校づくりに取り組むとともに、県立高校の再編整備を年次的・計画的に進め、県立高校再編整備計画を今年度中に策定して、学校・学科の再編整備を進めていきたいと考えている。また、再編整備に伴い、遠距離通学が必要となる生徒に対しては、経済的な負担軽減策も検討するとともに、施設の長寿命化や適正な教員配置による学びの充実などを行うことで、生徒・保護者が本県で学ぶことができて良かったと思える学校づくりを実現したいと考えている。

県教委では、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策はもとより、令和5年度重点取組方針（案）に沿った取組を充実させることで、新しい時代に対応した学校を推進していきたいと考えているので、知事には、ハード・ソフトの両面にわたる御支援をお願いしたいと思っている。

●村岡知事

まずは、新型コロナウイルス感染者数が依然高止まりの状況であるので、学校現場では本当に御苦勞が多いと思っている。改めて感謝を申し上げたい。

さて、部活動の地域移行は必然的な流れであると考えている。そこで、地域移行の受け皿となるスポーツ・文化団体の整備、指導者の確保等について、県教委とよく連携を取りながら、子ども達のスポーツ・文化活動の機会の確保・充実に向けた部活動改革にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

また、第3期県立高校将来構想について、色々な課題が出てくると思うが、県としてもしっかりとバックアップしていきたいと思っている。今後、教育環境の整備に向けて、予算面でもしっかりと対応していきたいと考えているので、引き続きよろしくをお願いしたい。

それでは、「令和5年度重点取組方針」について、本案のとおりすすめていくこととして、よろしいか。

(委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり)

それでは、いただいたご意見を十分に生かして、今後の事業の推進、施策の構築をしっかりと進めていきたいと思う。

(3) その他

●村岡知事

本日は、令和4年度重点取組方針主要関連事業の取組状況、令和5年度重点取組方針(案)をお諮りさせていただき、皆様から、貴重な御意見を賜った。

また、皆様の御協力により、来年度の重点取組方針を決定することができた。

本日決定した来年度の重点取組方針に基づく具体的な取組内容等については、これから、予算編成過程を通じて、検討を深めてまいりたい。

本日、皆様からいただいた御意見、御提言は、その検討に際し、十分踏まえさせていただくとともに、今後、教育が抱える様々な課題やコロナ禍を契機とした社会変革の動きなどにも柔軟かつ的確に対応しながら、本県教育の一層の充実に取り組んでまいりたいと考えている。

皆様におかれましても、引き続き、教育委員としてのお立場から、御理解、御協力を賜ることをお願いして、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会(事務局)

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。